熱帯の有用材（18）

緒方　健

アフリカンマホガニー（African Mahogany）

学名：*Khaya* spp.（センダン科）

本来マホガニーといえば中南米の熱帯に分布するセンダン科 *Swietenia* 属の樹木，とくに *S. macrophylla* King および *S. mahagoni* Jacq. を指す。しかしマホガニー材の名声にあやかって，材の多少の類似から分類学的に全く別の樹種にも材の市場名としてしばしばマホガニーの名がつけられている。例えば米市場などでフィリピンマホガニーと呼ばれるのはラワンのことで，これはフタバガキ科の樹木である。したがって *Swietenia* 属の材をわざわざ“真性マホガニー”（genuine mahogany, true m.）と断ることもある。これに対してアフリカンマホガニーは属は区別されているが *Swietenia* と同じセンダン科の樹木で，材質的にも *Swietenia* の材にほぼ匹敵し，その名に十分値するといえる。事実，ヨーロッパでは中南米のマホガニーの良材が少なくなっていることもあって，家具などで単にマホガニー材といえばアフリカンマホガニーであることが多いという。

カヤ属（*Khaya*）は約8種からなる。その分布域は西アフリカ（ガンビア～アンゴラ）から中央アフリカ，東アフリカ（スーダン～ローデシア）の広い範囲にわたり，さらに1種がマダガスカルにある。その中で木材樹種として知られるのは *Khaya ivorensis* A. Chev., *K. grandifoliola* C. DC. および *K. anthotheca* (Welw.) C. DC. の3種で，中でもコートディヴォアールからガーナ，ナイジェリア，カメルーンにかけての西アフリカ多雨林にある *K. ivorensis* が木の大きさ，蓄積からいって中心樹種である。他の2種はやや内陸の雨量が比較的少ない地域に生育し，西アフリカから中央アフリカを経てウガンダ，タンザニアにまで見られ，*K. anthotheca* はウガンダなど東アフリカ地域の最重要種のひとつとなっている。このほかセネガル～コンゴ，中央アフリカ，スーダン～ウガンダ（～モザンビーク）の乾燥地域に分布する *K. senegalensis* (Desr.) A. Juss. も木はやや小さいが良材である。これらの樹種は一般にアフリカンマホガニーの名で扱われるが，またその産出地あるいは出材港によって Ivory Coast mahogany, Nigeria m., Ghana m., Uganda m., Senegal m., Guinea m., Lagos m., Benin m. などと呼ばれることもある。ただし上にも述べたように他の樹種がマホガニーと称せられることも多く，Gaboon mahogany は合板材として多く用いられるオクメ（Okoume：*Aucoumea klaineana* Pierre，カンラン科）のことである。

樹木の形状（主に *K. ivorensis* および *K. anthotheca* に基づく）：*K. ivorensis*

OGATA, Ken : Useful Timbers in the Tropics (18) African Mahogany
農林水産省森林総合研究所木材利用部

は常緑林の樹木であるが，*K. anthotheca* ほかの樹種は乾季に落葉する落葉樹林に生育する。*K. ivorensis* および *K. anthotheca* が最も高木となり，樹高 40～55 m，直径 1.0～1.5（～2.0）m，枝下高 25～30 m に達するが，乾燥地に生育するものほど樹高は低い。樹幹は通直かやや屈曲し，高さ 2.0～3.5 m 程度の板根が発達する。葉は（4～）5～6（～7）対（*K. ivorensis*）または 2～4（～5）対（*K. anthotheca*）の小葉をもつ偶数羽状複葉で，小葉は長さ 5～10（～15）cm，幅 2.5～5.5 cm の楕円形，0.5～1.2（～1.8）cm の小葉柄がある。花序は長さ 6～25 cm の総状円錐花序で，枝端に数花序がかたまって出，径数 mm の多数の小花をつける。萼片，花弁各 4～5，雄ずいは筒状に癒合し，上部で 8～10 片に分かれる。果実は径 6～8（～10）cm のややひしゃげた 4～5 稜のある木質，球状のさく果で，熟すると 4～5 裂開する。種子は周囲に薄い膜状の翼をもち，大きさ 2～2.5×3.5～5 cm できわめて扁平である。

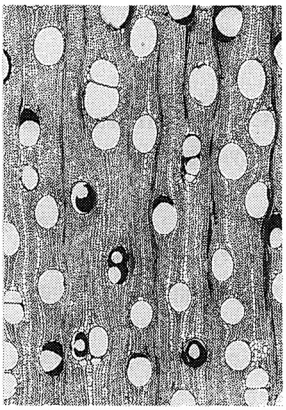

写真-1 *K. ivorensis* 木口面（16×）

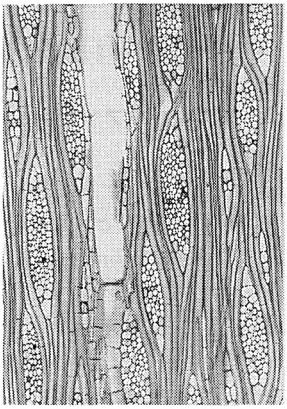

写真-2 同 板目面（40×）

木材の特徴：辺材は淡褐色～淡桃褐色で幅約 1.5～6.0 cm，心材は淡桃褐色から濃赤褐色，帯紫褐色まで樹種または個体により色調に変化がある。材に特別の臭いや味はない。肌目はやや粗，木理は交錯しリボン杢を現す。脆心材をもつことがあり，その部分を含む材は乾燥に際し狂いやすい。気乾比重は *K. ivorensis* と *K. anthotheca* では 0.55（0.45～0.65）程度，*K. grandifoliola* と *K. senegalensis* では 0.70（0.65～0.75）程度。したがって後者の樹種の方が一般にかなり重くかつ濃色で，この点中南米のマホガニー（とくに *Swietenia mahagoni*）により似ている。なお，*K. anthotheca* はしばしば White mahogany と呼ばれ，これに対し *K. ivorensis* を Red m. ということがあるが，これは樹皮の色調によるもので材色とは関係ない。

木材の加工性としては，乾燥性は良く（ただし脆心材を含む部分は狂いやすい），乾燥後の寸法安定性が高い。生材から乾燥材までの収縮率としては半径方向 2.4～4.1%，接線方向 5.1～6.2% の値が出されている。仕上げ加工も良好であるが，交錯木理のために鋭利な刃を用いる必要がある。接着性，塗装性も良い。菌や昆虫に対する心材の耐朽性は高い。用途としては中南米のマホガニーと同様，高雅な色調とすぐれた材質から家具，屋内造作材，その他化粧単板などに用いられる。